

米国の五大湖へ航行用の閘門を通じて、ミシシッピー川から外来種であるアジア産のコイの侵入の恐れがあり、この閘門を閉鎖するか、工兵隊の案の通りさらなる電氣的バリエーを設置するかについて、訴訟に関連した問題が生じているとのワシントンポストの1月31日付けの記事話題を既に紹介しましたが、ウォールストリートジャーナルで新しい報道がありましたので、情報提供致します。この記事は、その後の経過と、水路の歴史について述べています。

なお、同様の記事が、ニューヨークタイムズの2月9日付(<http://www.nytimes.com/2010/02/09/science/09asiancarp.html?bl>)でも報道されており、この件は大きな話題になっているようです。

The Wall Street Journal

2010年2月17日

Amid carp threat, a call to unhook

コイの脅威の最中に、フックをはずす呼び掛け

五大湖州は、歴史的なプロジェクトを取り消し、外来種の魚をかわすためにミシシッピー川からの接続を断つことを望んでいる。

By DOUGLAS BELKIN

シカゴ一世紀以上前、この都市は、自身をアメリカ中心地域の意欲的な首都と定義して、五大湖をメキシコ湾と接続する、その名前の由来となった川の流れを逆流させた。

今日、科学者と政治家が、20年の間ミシシッピー川を遡って移動している大食の飛び跳ねる魚に対する彼らの戦いを強めるにつれて、その工学的な偉業は増大する精査を受ける。アジアコイが最後の防御用のバリエーを破ったという合図の最中に、要求は大規模なやり直しを求めて高まっている。

「私達は、これらのバリエーが働いていないことを知っている」と、Joel Brammeier (Alliance for the Great Lakes(五大湖同盟)の会長、およびこのプロジェクトがどのようなものを示した2008年のレポートのリード作者)は言った。「生態学的な分離が、唯一の永久的な解決である」。



Getty Images

それが1月14日に都心部のシカゴを通過してはしけを押し出す時に、Illinois Marine TowingのPaulie PerezはWindy Cityのデッキを掃除する。

6つの五大湖州とカナダのオンタリオ州が、アジアコイ(Asian carp)が70億ドルの五大湖の水産業の多くを滅亡させることを防止する土俵際の努力において、流域を分離することを米国最高裁判所に請願した。陸軍工兵隊は、このアイデアに対する1000万ドル、5年のフィージビリティ調査をスタートした。そして、この計画は先週の米国連邦議会でのアジアコイ問題のヒアリングの重点事項になった。

Jim Oberstar 議員(民主党、ミネソタ州選出)(House Transportation and Infrastructure Committee(下院交通とインフラストラクチャー委員会)の議長)は、1969年にエリー湖の岸の近くでCuyahoga川に火がついて以来、彼は、どのような五大湖に関するそのような公衆に対する警告を見たことがないヒアリングで言った。その出来事は、Environmental Protection Agency(環境保護局)と、その後で、Clean Water Act(水質汚染防止法)の形成に向かわせた。

「私達は、アジアコイが湖に入ることを防止するために、私達の持っている力の中ですべてをしなければならない」とMr. Oberstarは言った。

それでも依然、水路の間のつながりを切るどのような努力でも大きな障害に直面している。海運業界は、ミシガン湖からミシシッピ川までのアクセスを可能にしている閘門の閉鎖は、地元の経済への壊滅的な打撃であるであろうと、言う。そして、現在、半定期的にミシガン湖の中にシカゴ水路経由で大量の水の放水を伴っている、シカゴの洪水制御は、莫大な数十億ドルのインフラストラクチャーの修正を必要とするであろう。

1870年代に戻って、シカゴ川は都市のかなりの産業廃棄物のためのゴミ捨て場であった。川は、エンドウ豆のスープと似ていて、においがしていて、「油のような感触」であったとDonald L. Miller(「世紀の都市」、シカゴの履歴、の作者)は書いた。

川がミシガン湖の中に排水し、公衆の飲料水供給が湖から引かれたので、水は頻繁に汚染された。コレラ、腸チフス、および赤痢はほとんど毎年、数千の人を殺した。



水路の変更

約 100 年前に、シカゴはミシガン湖に注ぎ込む数個の水路を逆流させた。

→再計画された水路の、現在の流下方向。

都市が災害のふちの上でぐらついている状態で、水を五大湖から分離しミシシッピー川に接続する水路に向きを変えるために、それを浚渫し、大規模なポンプを設置し、また、70 マイル以上の水路を構築することによって、シカゴ川の流路を逆流させる 50 年のプロジェクトを、指導者達が始めた。

結果は現代の奇跡として認められた。シカゴは 300,000 人の、臭く病気に悩まされた都市から、中西部のビジネスと文化の首都に変えられた。

しかし、1959 年の St. Lawrence Seaway(セントローレンス水路)の完成とともに、プロジェクトの意図しない結果は、この新しい水路のスーパーハイウェイが五大湖とメキシコ湾の間を遊泳する外来種のためのコンベアになったことであった。Zebra mussels (ゼブラ貝) と round goby (ラウンドハゼ)を含む一連の動物は、ローカルな生態系への損害において数十億ドルを起こして国中いたるところで水路に広がっていた。

しかし、どれもアジアコイの最近の侵入のように世間の注目を引かなかった。この魚は、1970 年代に Deep South(深南部)で養魚場から汚物をきれいにするために輸入された。1990 年代の初期に、それらは洪水の間にミシシッピー川の中に脱出し、以来中西部の川を通過して北に移動していた。

アジアコイは、ほとんど天敵を持っていず、最高 4 フィートまでの長さになり、100 ポンドの体重があり得る。それらは 1 年に数回繁殖し、食物に関して在来種の魚に競争で勝つ。

その上悪いことには、彼らは高速のプロペラのヒューという音に向かって水面上最高 8 フィートまで盲目的に飛躍し、船に乗る人を傷つける。

2002 年に、政府は、その魚を湾に留める最後のバックネットであろうと望まれたもの(ミシガン湖から約 30 マイル南の Chicago Sanitary and Ship Canal の近くの電氣的フェンス)を構築した。この秋に、科学者はバリエーを越えて魚の遺伝形質を見つけた。先月、同じタイプのテストはミシガン湖自身で遺伝形質を示した。

五大湖州は、船がミシシッピ水路とミシガン湖の間で移動することを可能にする航行用の閘門を、コイを締め出すために閉めたままにすることを要求した。

毎年シカゴ地域を通過して約 2000 万トンの貨物を動かすはしけ業界は、一時的な閉鎖さえ数千人の雇用を破壊し、地域の商業を損うであろうと伝えて、後ろ向きになった。彼らは流域の分離を不要であるとみなした。

オバマの執行部は、先週、その魚を湾に保つための、25-pronged (25 の選択肢を持つ)、7850 万ドルの対応を示すことによって、中間解決策を見つけようと試みた。それは、電氣的なバリエーを追加し、1 週間に数日ナビゲーションロックを閉じて、コイに対してより頻繁に試験することを提案している。今までのところ、そのアプローチは、誰も幸福にしなかったようである。

海運業への損害のほかに、大きな、インフラストラクチャーに関する問題は、テーブルのように平らなシカゴで洪水水について何をするべきかである。

数年ごとに 1 回、豪雨はシカゴの川と運河の能力を越えている。40 億ドルの深いトンネルと貯水池のシステムは、洪水の場合にその水のいくらかを貯留するために構築されている。

分離計画が実施されるならば、その選択肢は取り除かれ得るであろう。すべてのその水が排水できる代わりの場所を作成することは、「大規模な支出という意味を持っている」と Maj. Gen. John Peabody(米国陸軍工兵隊の、Great Lakes and Ohio River Division(五大湖及びオハイオ川部門の司令官)は言った。

「これは巨大な調整策である」と Peabody 将軍は言った。「考慮すべきたくさんの変数がある」。

http://online.wsj.com/article/SB10001424052748704479704575061964066905730.html?mod=WSJ_hps_sections_news#